

急性肝不全時肝再生における新規血清マーカーとしての糖鎖の有用性の検討

・はじめに

様々な要因(肝炎ウイルス感染、薬剤生など)により突然肝臓が働かなくなる急性肝不全という非常に予後の悪い病態があります。治療方法として、自分の肝臓の再生に期待する保存的治療と、絶対的な治療として生体肝移植術が行われていますが、その治療適応の判断は非常に難しいのが現状です。

糖鎖とは、核質、蛋白質に次ぐ「第3の生命鎖」と言われており、生命活動の中で重要な役割を果たすと考えられています。近年、肝癌患者さんの肝臓の繊維化マーカーとして血液中のある種の糖鎖(WFA⁺-M2BP)が有用だと報告され、肝再生においても糖鎖マーカーが有用である可能性が考えられます。

・対象

九州大学病院 消化器・総合外科においてこれまでに生体肝移植ドナーで肝切除術を受けられた方(2013年4月1日～2014年3月31日)、約30名および、肝臓・膵臓・胆道内科において急性肝不全に対し、血漿交換等の内科的治療を行われた方の約40名を対象にいたします。個人を特定できる情報は全て削除いたしますので、個人が特定できない状態で使用いたします。

・研究内容

当科で採取した血液を用いて、レクチンアレイ法という方法で肝再生における経時的な糖鎖の動態を解析します。糖鎖の解析については、共同研究施設である独立行政法人産業技術総合研究所糖鎖医工学研究センターに血液サンプルを送付し、同センターで解析を行います。また、既存の糖鎖測定(WFA⁺-M2BP)はシスメックス社 免疫・生化学プロダクトエンジニアリング本部(神戸市西区高塚台4-4-4)で行います。この結果を用いて、急性肝不全の患者さんの採取した血液中の糖鎖マーカーを測定、予後との相関を検討し、その有用性を検証します。

この研究を行うことで患者さんに日常診療以外の余分な負担が生じることはありません。

・個人情報の管理について

個人情報漏洩を防ぐため、九州大学大学院医学研究院消化器・総合外科学分野においては、個人を特定できる情報を削除し、匿名化された個人情報と連結

を可能にする対応表は作成しません。

また、本研究の実施過程及びその結果の公表（学会や論文等）の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

・研究期間

研究を行う期間は承認日より平成30年3月31日まで

・医学上の貢献

本研究により被験者となった患者さんが直接受けることができる利益はありませんが、将来研究成果は急性肝不全患者さんの予後の予測の一助となり、多くの患者さんの治療と健康に貢献できる可能性が高いと考えます。

・研究機関

九州大学大学院消化器総合外科学分野

教授 前原 喜彦（責任者）

准教授 調 憲

共同研究員 吉屋 匠平

大学院 別城 悠樹

九州大学病院 肝臓・膵臓・胆道内科

講師 古藤 和浩

多施設共同研究：

独立行政法人産業技術総合研究所 糖鎖医工学研究センター

センター長 成松久

診断薬開発促進班班長 久野敦

シスメックス株式会社 免疫生化学プロダクトエンジニアリング本部

本部長 高浜洋一

課長 香川孝司

係長 鶴野親是

係長 松崎英樹

連絡先：〒812-8582

福岡市東区馬出 3-1-1

Tel：092-642-5479（消化器・総合外科外来）（平日 8:30～17:00）

092-642-5473（消化器・総合外科病棟）（夜間・休日）

担当：調 憲